

## ご挨拶



学長 大塩 武

ご存じのとおり、明治学院大学の「建学の精神」は「キリスト教主義教育」、「教育理念」は「Do for Others」です。ところで、キリスト教主義教育を建学の精神とする大学は日本に多数あります。それでは、大学という研究教育機関において、そもそもキリスト教主義教育はどのようにおこなわれるのでしょうか。それからまた、他大学と異なる明治学院大学固有のキリスト教主義教育というものが存在するのでしょうか。

大学の基本的な機能は学術研究と教育ですから、その機能に即して考えてみましょう。月に向けてロケットを発射するときに、「キリスト教主義的な物理学」で軌道計算すると月に到達できるが、「イスラム教主義的な物理学」で計算すると金星に到達してしまうというようなことはありえません。自然科学あるいは社会科学を問わず、宗教が学術研究そのものに関与することはありえません。学術研究にキリスト教が直接関与できないなら、学術研究の成果を教授するという意味における教育に、キリスト教が関与することはできません。

それでは、大学におけるキリスト教主義教育の可能性はどこに見出せるのでしょうか。その可能性は、学術研究の成果を運用する人間の人格を問う教育、つまり人格教育という形で想定できます。例えばそれは、礼拝においてあるかもしれません。キャンパスにおける教職員と学生の交流にあるかもしれません。あるいは学生同志の交流にあるかもしれません。それぞれはキリスト教主義教育がおこなわれる大切な場面に違いありません。

さて、明治学院大学では、そのような形のキリスト教主義教育だけではなく、キリスト教主義的な人格教育をおこなうための教育システムも用意しています。それがボランティアセンターです。ボランティアセンターは、教育理念“Do for Others”の実践をとおして、キリスト教主義教育を実現する場所でもあるのです。ここに本学独自のキリスト教主義教育の可能性が 있습니다。

ボランティアセンターの2007年度の活動報告をご覧ください、ボランティアセンターの活動にご理解とご支援をお願いできれば幸いです。

(2008年1月23日稿)